



「まとめ」の時期がスタートしました (1/7 全校集会講話より)

1月7日、全校集会は、元気なあいさつの声で始まりました。

2019年がスタートしました。学校の1年を考えると、これからの3ヶ月は「まとめの時期」となります。1月7日から数えて、今の学年は残すところ11週間。特に6年生は「卒業」を迎え、小学校生活のまとめの時期でもあります。11週間の過ごし方によって学年の終わりが変わってくると思います。

4月の始業式に、校長から全校児童に課題を出しました。それは、「校訓『善く生きる』とは、どんなことか？自分なりの答えを学年の終わりに自分の言葉で表現できるようにしなさい」というものでした。その時期が近づいてきました。1月末から2月前半の学級活動で子どもたちに書いてもらう予定です。

その答えを出すためのヒントとなるお話です。

「三方よし」という言葉

これは、江戸時代から明治時代に日本全国で商売をした近江（現在の滋賀県）の商人が大切にしていた気持ちを表した言葉です。具体的には、「買い手（買う人）よし 売り手（売る人）よし 世間（世の中）よし」です。

「三方よし」の気持ちをもとに、利益だけでなく、多くの人に喜ばれる商品を生ろうとし、少しずつ買う人の信用を獲得していきました。利益が貯まると、橋をつくったり学校を建てたり、世の中のためにも力を尽くしました。

つまり、「三方よし」とは、「商売とは、自分の利益だけでなく、買い手であるお客様はもちろん、世の中にとってもよいものであるべきだ」という考えです。

この考え方は、私たちの日常生活にも置き換えることができます。

①買い手＝「あなた」 ②売り手＝「自分」 ③世の中＝「社会」（学級・学校・地域など）となります。

「三方よし」を参考に「善く生きる」ことを考えてみましょう

3つの「よし」をもとに「善く生きる」を次のように考えることができます。いずれも集団の中で自分をどのように生かしていくかということにつながっていきます。

- (1)「自分よし」とは、自分のあり方という視点で、どうすることが「善く生きる」ことなのか。
- (2)「あなたよし」とは、身近な人とかかわりの中で、どうすることが「善く生きる」ことなのか。
- (3)「社会よし」とは、自分、自分の周り、学校全体や地域という中で、どうすることが「善く生きる」ことなのか。

・1年生から3年生は、「自分よし」「あなたよし」で考えてみましょう。

・4年生から6年生は、「自分よし」「あなたよし」「社会よし」で考えてみましょう。

子どもたちの発達段階に応じて視点が広がることを期待したいと思います。

